



## 内部障害表すヘルプマーク

# 普及後押し県内導入



外見では分かりにくい体の内部障害や難病への配慮を求める「ヘルプマーク」について、県は本年度の導入を決め、今夏から必要とする人に配布を始める。かばんなどに付けられるストラップタイプで、周囲の人から理解や援助を得やすくする。導入を求めている患者らは「ありがたい」と歓迎しているが、マークの認知度アップが課題となっている。

(社会部次長・荒木佑子)

## 今夏から無料配布

ヘルプマークは、赤地に白十字とハートが浮かぶ図柄で、内部障害者や人工関節使用者、難病患者、妊娠初期の女性らが対象。東京都が2012年に作成し、周りの人に▽電車やバスの席を譲る▽困っていたら声を掛ける▽災害時に支援する「などを呼び掛ける。昨年7月に日本工業規格(JIS)に登録され、既に20都道府県で導入されている。

県内でも導入を求める声があり、県は昨年9月、障害者団体や市町村にアンケート調査を実施。約9割から「導入してほしい」という回答を得た。

県障害者(児)団体連絡協議会は昨年、県の18年度予算編成で、ヘルプマークの普及促進を要望した。平井隆会長(67)によると、外見で分からない障害がある人が、店舗な

プマークの周知活動も行う。

自身も線維筋痛症を患う鳥井謙祐理事長(45)は、上半身に激しい痛みがあり、ふらつき、めまいもある。かばんにヘルプマークを付けているが、電車に乗っても優先席を譲られたことはないという。「アクセサリだと思われるようなのだ。公共交通機関や商業施設、医療機関などでの周知が必要」と言う。

## 県認知度向上図る

どの駐車場で、車いすのマークがある障害者用スペースに車を止めると、苦情を言われるケースがあるという。「見た目で分からないと、なかなか理解してもらえない。配慮が必要な人がいることに気付いてほしい」と話す。

全身の筋肉が激しく痛む「線維筋痛症」と、耐え難い疲労感が続く「慢性疲労症候群」の患者を支えるNPO法人えがお(富山市)は、ヘル

同法人社員で看護師の山田直美さん(52)は、長女が息切れや呼吸困難などの症状が出る難病「肺動脈性肺高血圧症」を患う。「世の中にはいろいろな障害を持った人がいる。マークにより、支援が必要な一人であることが可視化できる」として、ヘルプマーク普及活動団体にも所属する。

かばんに付けたヘルプマークを見せる鳥井理事長(左)と山田さん

県は、ヘルプマークを5千人作成し、夏ごろから必要の人に無料で配布する。県障害

福祉課は「ちらしやポスターで周知を図っていききたい」と

している。

＝高岡市内